

「能登へ思いを届けたい！」宮城の高校生の思いが本に…

宮城県高文連・高体連 連携事業 「心のバトンプロジェクト」

教育長 表敬訪問について

令和6（2024）年に発生した能登半島地震。「私たちにできることはないのか？」という宮城野高生の思いから、現地の美術大学や京都の美術高校との連携・協力により、能登半島復興支援「心のバトンプロジェクト」が立ち上がりました。現地で行ったワークショップの成果をまとめた絵本が完成したことから、その報告のため、プロジェクトに参加した生徒たちが宮城県教育委員会を表敬訪問します。

報道機関の皆様におかれましては、ぜひ取材して下さるようお願いいたします。

- 1 訪問日 令和8年6月2日（火曜日） 午後4時から午後4時30分まで
- 2 場所 宮城県行政庁舎4階 庁議室
- 3 対応者 宮城県教育庁 副教育長 本田 史郎・大宮司 昭倫
- 4 訪問者 宮城県高等学校文化連盟 会長 田淵 龍二（宮城野高等学校校長）
宮城野高等学校生徒（3名）3年 鹿野 松太郎（かの しょうたろう）
3年 佐藤 萌結（さとう もゆ）
2年 加藤 瑛大（かとう えいた）

<「心のバトンプロジェクト」について>

【概要】宮城県高等学校文化連盟と宮城県高等学校体育連盟が連携し、能登半島地震の被災地支援を行うプロジェクト。令和6年度にスタートし、令和7年度に2回目の訪問を行った。今回はこの報告を行うもの。

- 能登半島地震の後、美術関係でつながりのあった宮城野高等学校と京都市立美術工芸高等学校の2校で被災地のために何かできないかという話が持ち上がった。ここに高文連・高体連が加わり、募金活動や現地訪問を行うに至った。
- 令和7年度は、生徒3名と教員2名が能登半島に向かい、募金を手渡すとともに、現地の方々と交流し、インタビューをもとにした絵本を製作した。
- 今年度は、事業を拡大し、全県から参加者を募って能登半島へ訪問する予定。



完成した絵本



生徒が自主的に
作成したレポート